

町内に初の漂着 巨大なマッコウクジラを埋設



7月26日、道の駅「黒之瀬戸だんだん市場」下の海岸に体長14・5メートル、体重約30トンのマッコウクジラ1頭が漂着しました。漂着は、引き潮の影響で浅瀬に取り残されたことが原因と考えられます。

町では、翌日から沖への流出を防ぐため、クジラをロープで固定し、処分する方法などを県と協議しました。その後、公民館や港湾業者との調整を進め、30日に埋設地へクジラを移動し、31日に埋設を完了しました。

埋設に協力した田尻自治公民館の上達正志館長は「事業者や行政、地域が連携して迅速な対応ができ、腐敗による悪臭や漁業被害がでなくて良かった」と話しました。

なお協力した田尻自治公民館と迅速に作業に従事した株式会社社長崎組には、8月28日に役場で川添健町長から感謝状が手渡されました。この日、台風対策のため欠席した東町漁協田尻地区運営員には後日、感謝状が贈られました。



感謝状を受け取る上達館長（写真右）と長崎直寿代表取締役（同左）



埋設が行われた用地

特別警報で自衛隊が派遣

8月28日から接近・上陸した台風10号に伴い、特別警報が発令されました。

これにより、災害発生に備え町では、陸上自衛隊員2人が28日から役場で情報収集を行いました。

これは、自衛隊と町との連携強化や情報連絡体制が主な目的で、被害が大きくなった場合に迅速な災害対応を可能にするための体制になります。今回の台

風の勢力が非常に大きい見通しであったため、陸上自衛隊国分駐屯地（霧島市）からの打診がありました。

川添町長は「自衛隊や警察などが連携して災害に備えてくれることでとても心強い。感謝したい」と話しました。

隊員は町の安全のため、28日から30日までの間、役場に待機しました。

